あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第57号 2012 年4月1日発行

2012

大和駅より西方向に 徒歩で約13分、 「ふれあいの森」では 桜とチューリップが春 を競います



絵:私の日常の中での大切な時間(大賞受賞作品) 山崎星来(せいら)(大和市立つきみ野中学校1年)

講評で「子どものころに美しさに感動した思い出 は大人になっても消えることはない。この先も絵 を描き続けてほしい」と述べられています。「あ の手 この手」では4,5,6月号の表紙に3回シ リーズで大賞、最優秀賞の作品を紹介します。

3 回目となる「やまと子ども絵画大賞」(笹倉鉄 平版画ミュージアム主催、神奈川新聞社後 援)。2011年のテーマは「大切にしたい景色、思 い出」。市内の小中学生から259点の応募があ りました。審査委員長で画家の笹倉鉄平さんは



山崎星来さん(現在中学2年生)からのメッセージ

みなさんは、嬉しいとか悲しい思い出を味わ ったことがあるかと思います。ささいなこと でもいいです。その思い出が、今は心の片隅 にあってもいいです。この絵は心の片隅にあ る時間、今大切にしている時間を詰めた絵で す。人と物と過ごした時間はいつかはとぎれ てしまいます。だから一分一秒を大切にして 生きてください。



[拠点やまと] 会長 関根孝子

協働事業で市民が運営 ~大和市民活動センター~

平成24年度からの3年間も引き続き[拠点やまと]が大和市と協働して大和市民活動センタ 一の運営を行います。

市民が担う意義は生活者として、より近いところで市民活動団体の課題に共感でき、その解 決に一緒に知恵を絞ることができることです。

一度、市民活動センターにおいでください。色々な出会いがあなたの活動に幅をもたらす ことでしょう。スタッフはそんな市民活動の場づくりに努めています。

*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

大和市民活動センターは

応援します(いっしょに考えましょう)

協働事業等提案制度

占 市民活動推進補助金制度

の提案募集が始まります。

いっしょに取組む制度です。 4種類あります。 補助金が交付されます。 2種類あります。

- ①市民等が事業提案
- ②市が設定した課題に市民等が事業提案
- ③市が課題と事業案を提示して市民等が具体化提案
- ④新しい公共の創造に関する市の施策や計画に関する 意見提案

①めばえ:5万円以内

*立ちあげたばかりの活動が対象

②はぐくみ:20万円以内

*活動をより発展させる事業を対象

「めばえ」 「はぐくみ」 民活動課スタッフも 提案募集の説明 5/9 とも 6 月に 提 広報やまと」 集要項は 4/16 市民活動課と センター」に 公開選考会を開 (水) (月) 催し補助金交付 14:00 での相談 を決定します。 S あります。 S 4/15 5/15 号に 間 18:00 と言える大和市に (火) の街に住んでよかった ですよー は しましょう。 市民活動課 Tel.046-260-5103

大和市民活動センターは②の行政提案型。 事業名は大和市民活動センター管理運営事業。 提案者は[拠点やまと]。事業内容は「センター」 の管理運営を通しての、市民活動の推進と社会 資源の充実。



3月29日(木)晴れ。被災地富岡町からの子供たち、地元歓迎の子供たちで大賑わいの「ツリーガーデン」。お互い名前も知らずに遊びまわって大はしゃぎ!"竹馬"が順番待ちになった時、小学校5年の女の子が3年の女の子に順番を譲った。「今日は楽しいな、ありがとう」と言って私の竹馬補助で楽しそうに何歩も。「さあ、お別れだね」「元気でね!」あれ?見送りの中にその子が…「郡山中央交通」大型バスに手を振りながら乗り込んだ子が順番を譲ってくれた方でした。



「センター」の「条例」による位置づけ

大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例、 第9条 市民等、事業者及び市は協働の原則に基 づき、それぞれの役割分担に応じて、社会資源 の充実を図るための協働の拠点を設置し、その 充実に努める。

2.協働の拠点は、原則として市民等がその運営を担う。

国際色豊かな"やまと"=「センター」も世界の友だちに

第7回やまと国際交流フェスティバル 3/18(日)10 時~15 時 会場:大和駅東側プロムナード

当日は曇り空、昼過ぎには小雨がパラつくが傘がなくても大丈夫。人出はステージの演奏の音やエスニック料理の香り、なにをやっているのかの好奇心に誘われ、人出は国際色を感ぜられる様子。開催の時間いっぱいステージはアンコールを繰返していた。「センター」もステージ前の開催本部隣のテントをお借りした。今年も大学生や一般ボランティアと登録団体「地球の木」の協力を得て、スタッフ全員が参加しフェスタに加わった。来場者

のお国アンケートは世界地図にお国をマーク、国旗を 手書きし来場シール貼る。その間、会話で交流、「セ ンター」を PR する。大和には 70 ヵ国の外国人がいる

が、マークされたのは 20 カ国。ステージの出演者の 着替え個所として「センター」 を活用してもらいそれが出会 いの機会となった。



元気に・喜んで 子どもたちの交流

3/29(木)福島県冨岡町と大和の子どもたちがツリーガーデン(緑野青空子ども広場)で遊ぶ

原発事故で避難している富岡町の支援活動を続けている「アースデイ湘南」の招きで2泊3日の"春休みWALOHA 海の大運動会"に参加した子どもたちに最終日の3月29日(木)、大和で誇れるツリーガーデンで思いっきり遊んでもらおうと、中央林間地域の皆さんの協力で交流会が実現しました。昨年末、富岡町のイベントにセンター登録団体をコーディネートして協力したのがきっかけです。その時メッセージカードを送った大和の子どもたちも集まりました。

1年ぶりで土の上で木の上で遊べたとお母さんは我が子を見上げて話してくださいました。



食べて遊んで、最後に は中学生のお兄ちゃん達 もお父さんも滑り台を駆け 上っていました。大勢の子 どもたちの遊ぶ声がなによ りの交流会でした。

子育ての、きめの細かい支援を知りました

第51回連続共育セミナー「今どきの子育て、親事情」を3/23(金)実施しました

話し手:清水三和子さん(大和さくら里親会会長)、永井圭子さん(NPO法人チャイルドケア理事長)

「孤立しない子育てのために」というサブタイトルをつけたセミナーに、賑やかに子育てをしている人も参加して、現在の子育て事情を知る機会となりました。

「大和さくら里親会」の清水さんは、「三日里親」を入れると、今までに計50人もの子どもたちを養育。母親から虐待を受け、さらに性暴力により15歳で妊娠。大人を信じることができなかった少女が、清水さんの愛情を受けて、初めて大人を信じることができたこと。その少女が帰れる場所は清水さんの家だけとわかり、里親の存在の大きさに参加者みんな感動しました。

「チャイルドケア」の永井さんは子育てしているお母さん、お父さんを支援してあげたいと、内容に関わらず引き受けている。ファミリーサポートセンター事業は3ヶ月未満の子どもは利用できない規則。産後の一番手助けが必要な時期に支援をしているチャイルドケアの

存在の大きさを認識しました。 児童相談所や行政が入り 込めない家庭に支援の手 を差しのべている活動に 拍手です。(M. I.)



市民活動 課主催

ボランティア見学会に19名の参加者 ~ボランティアを求めている団体は注目~

3/15(木)14:30 来館。1 時間ほど滞在。一行は 10 時に市役所に集合しバスでボランティア関連施設 4 ヶ所を巡り、「センター」では「市民活動センター」の役割、ボランティア先輩の経験談、そしてボランティアを今求めている3団体(サポートチーム G、泉の森作業所、NPO 法人ピコピコ)がお誘いの話をしました。参加者は20代が2人、50~80代が17人、大半がボランティアに関わりたいと前向きな感想。この見学会はボランティアに繋がる実績もあり、お勧めです。

ー「センター」の**ある日ある時**

3/18(日)国際交流フェスタ開始 早々、来場の外国女性に「干支」入 り名刺を作ろうと生れ年を尋ねたと ころ、怒って立去った、彼氏も慌て て追いかけて行った。考えてみれ ば女性に失礼な展開だったと反省 し、年を聞いての名刺作りは止め て、記念のおみやげとした。

*「あの手この手」は大和市民活動センター の H.P.ではカラーでご覧になれます。 東日本大震災の報道で地域コミュニティラジオ[FM やまと]は頼りになると、再認識、見直されました。

もしも いつでも FM やまと KANAGAWA おへそラジオ

隔週火曜日の午前9時から1時間の生放送。今の大和市の市民活動の姿をお伝えしています。

朝ラジ☆ホッとスクランブル FMやまと 大和市民活動センターだより





第 1, 3, 5 (火) 生放送

花弁を見るとボケた白?幹から花が咲 いたり? バランス悪く枝が折れたり? でも大器晩成…振り向くと驚きの横山 大観「夜桜」がある。(望月則男)

巨大大津波の到達点を桜の木 17000 本でつなぐという陸前高田市のプロジ ェクト「桜ライン 3.11」。 今年は咲いて くれるか。**(小杉皓男)**

桜の花びらが舞い散る中、座禅を組 み瞑想していた異国の人。卒園の記 念にもらった桜の苗木。登って遊ん だ秘密の桜。嵐の中拾って押し花に した八重桜。 全部思い出。(中山みゆき)

昔は「サクラチル」、今は「サクラサク」 友人宅での園遊会。花冷えを暖炉で 暖め、一年ぶりの友たちと団子とワイ ンでもりあがります。(関根孝子)



桜の散り始めた神社で視覚障害者の 方々が、お花見とお別れ会を一緒に やってくださった7年前、職場を去る ことになった私のため、穏かで暖かい お花見日和でした。この季節になると 思い出します。(櫻井貞代)

子どもの頃、サクラ印のハチミツをホ ットケーキにかけるのが定番で、ハ チミツはサクラからとるんだとずっと 思っていた。(村山真弓)

密かに名づけた"なっちゃん桜"。娘 の入園式の朝、「健やかに」と願って 参拝した神社の桜です。今年の"な っちゃん桜"の見頃は?と、毎年、楽 しみにしています。(石川美恵子)

生涯において桜に出会うことが多い。 会社門前の古桜、華やかに咲き、み ごとに散り、緑葉成し、落葉撒く、が今 はない。桜は全国どこでも見れ、思い 出がある。(浅見正明)

発行日・2012年4月1日 「あの手 この手」第 57 号

発行・大和市民活動センター [拠点やまと]

大和市民活動センター <開館・月~土 9:00~18:00> 〒242-0021 大和市中央 1-5-1

TEL: 046-260-2586 FAX:046-205-5788 E-mail:yamato@ar.wakwak.com http://www.kyodounokyoten.com/



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する月刊広報紙「あの手 この手」。

今年度最初の4月号(第57号)をお届けします。

久しぶりにたくさんの子どもたちの声のなかにいました。

3月29日(木)。春先の陽光が燦燦(さんさん)と降り注ぐ下、私は相変わらず「センター」 写真係として、緑野青空子ども広場ツリーガーデンにいました。中央林間駅に近く、小田急江ノ 島線の車窓からも見える広場です。ここにいた経緯は本号 p.3 中段にある記事に譲るとして、子 どもたちが思う存分、自分たちであそぶ姿を見ることができました。

叫ぶ声、呼ぶ声、笑う声、怒る声。「おーおー、いいぞ。みんなはじけているなあ」。

土の地面を駆けていく足音、棒で木板を叩く音、広場にある大木や小屋の屋根に登っている子 どもたち、土の上に寝そべる子ども。

不意に私はまた、平安時代末期の歌謡集『梁塵秘抄』(りょうじんひしょう)にある歌を思い出しました。「遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生まれけむ 遊ぶ子どもの声きけば我が身さっこそゆるがるれ」。

子どもはあそび狂うというか、あそび倒すというか、無我夢中であそぶなかで、人と自然を知り、社会を学び育っていく。そのことをほんの数時間「ツリガ」(ここにあそびに来る子どもたちは「緑野青空子ども広場ツリーガーデン」のことをこう言う)にいただけで教えられます。

この「ツリガ」。市の行政提案による協働事業として、市とツリーガーデン管理運営委員会が運営。「自分の責任で自由にあそぶ」をモットーとしている広場ですというような内容が入り口看板に記されていました。

帰途、もうひとつ思い出したことがありました。それは自治体の憲法とも称される「大和市自治基本条例」(2004年10月公布)の11条、子どもの条項にある「市は、子どもが健やかに育つ環境をつくる責務を有する」という文言でした。



3/29(木)「ツリガ」でのスケッチ(上も) イラスト:望月則男